

第14回企画委員会報告(2/18)

[報告事項]

1. 第7回シンポジウム開催結果
2. 実行委員会からの報告
 - ①第3回ものづくりワークショップ開催
 - ②第31回(平成26年度第3回)スパコンセミナー開催
 - ③海外におけるHPC利用状況調査の成果および検収完了
 - ④アンケート調査結果のまとめ(中間報告)
3. HPCI コンソーシアム及びAICS-WGの活動状況
4. 産業基盤シミュレーションソフトの調査プロジェクトの進捗状況
5. 2015年度運営体制の確認

[審議事項]

6. 2015年度活動方針の検討
 - ①2014年度の活動計画と実績
 - ②2015年度の活動方針
7. 新規正会員の勧誘について

「産業基盤シミュレーションソフトWG 分野別研究会」への参加について

産応協では、産官学連携による産業基盤シミュレーションソフトの開発とその利用技術の確立に関わる、「産業基盤シミュレーションソフト調査・検証プロジェクト」を具体化するべく、「産業基盤シミュレーションソフトWG」を立ち上げて準備を進めてきた。今般、本WG活動の一環として産業界側のニーズとアカデミア側のシーズのマッチングなどを行う「分野別研究会」をスタートさせ、本研究会への参加呼びかけを行った。(2015/2/18)

1 「産業基盤シミュレーションソフトWG 分野別研究会」の内容

1.1 研究会対象分野について

- ・WG内での検討の結果、以下の分野での研究会からスタート。
 - ① 材料・デバイス、化学
 - ② 機械、エネルギー、防災
- ・バイオ・創薬分野については、現在、アカデミア側・製薬協・理研などとの調整を行っており、同様の研究会の立ち上げを検討。詳細が決まり次第、後日、必要に応じて参加の呼びかけを行う予定。
- ・上記以外の分野での検討を希望する方は、産応協事務局までご連絡を下さい。

1.2 本研究会の進め方

- ・分野毎に分かれ、アカデミアの方々を交えて以下の検討を実施。
 - 各企業・業界が中長期的に必要とする、ソフト及びその利用技術に関するニーズ
 - アカデミア側のポテンシャルの確認と産業界のニーズとのマッチング可能性
- ・頻度は1回/月程度。3月下旬から開始し、全3回程度を想定。
- ・また、開発するソフトの継続的な維持・普及・改良の実現に向けた仕組みの検討については、継続して事務局を中心にWGとして進める。
- ・マッチングにより、実際に進めるテーマが見つかった後、「アカデミア側検討作業に対応する実現性の検証(問題設定、結果検証・評価等)」などの具体的な作業を、「産業基盤シミュレーションソフト調査・検証プロジェクト」を立ち上げて実施。

実施の時点では再度、産応協メンバーへの参加の呼びかけを行う予定。

1.3 参加メンバーへのお願い

- ・本研究会にご参加を頂き、各企業の現場でのニーズを可能な範囲での説明(プレゼン)及び議論への参加をお願いする。
- ・本研究会の開催に先立ち、現場ニーズに関するアンケート調査を実施する予定。協力をお願いする。

2 問い合わせ先

スーパーコンピューティング技術産業応用協議会)事務局

〒105-0001

東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング 西棟4階

電話：03-6435-5425 Fax：03-6435-5426

E-メール：icsep@nifty.com

産官学連携による

「産業基盤シミュレーションソフト調査・検証プロジェクト」概要

1. 調査プロジェクトの主旨

- ・シミュレーションソフトウェア及びこれをスパコンで利用する技術は産業競争力確保にとって必須の技術である。この調査プロジェクトでは、産業界が主体となり、既存のソフトウェアを超え、中長期的に産業界が必要とするシミュレーションソフト(産業基盤ソフト)について、アカデミア等の持つポテンシャルを活用した開発の可能性の調査・検証を行う。さらに、開発されたソフトを継続的に改良・維持・普及する仕組みの検討を行う。
- ・調査・検証プロジェクト後は、そのソフト開発プロジェクトの実現とこれを継続的に改良・維持・普及する方策の実現を狙う。

2. 調査・検証プロジェクトの概要と進め方

- ・実施内容：中長期的に産業界が必要とする産業基盤ソフトを、産業界側のニーズを出発点とし、アカデミアのシーズ・英知を活用して開発する事を目指し、産業界のニーズとアカデミア側のポテンシャルをマッチングする調査・検証プロジェクトを実施する。
- ・プロジェクト期間：1年間の調査期間 + 1~2年間の検証期間を想定する。
- ・体制：産応協が中心となり、そのメンバー企業及び、他の企業・企業団体からなるコンソーシアムを構成してプロジェクトを実施する。
- ・国プロジェクトへの参画：実施に当たっては、2014年度に開始された、文科省の、重点アプリプロジェクト公募の各課題に参加する形を予定する。
- ・プロジェクトのアウトプット：
 - 産業界が必要とする各分野の産業基盤ソフトの明確化とその開発の実現性検証結果。
 - 産官学が連携した開発プロジェクト及び開発後のソフト・利用技術を継続的に維持・普及・改良する仕組みの実現性検討結果。
- ・プロジェクト後の展開：調査・検証プロジェクトの成果を受け、産業界も参画する開発プロジェクト及び成果を維持・普及・改良する仕組みの立ち上げを目指す。
- ・参加メンバーの役割と想定する負担：
 - 各企業・業界が中長期的に必要なとする、ソフト及びその利用技術に関するニーズの明確化
 - アカデミア側のポテンシャルの確認とニーズとのマッチング作業
 - アカデミア側検討作業に対応する実現性の検証(問題設定、結果検証・評価等)

- 開発するソフトの継続的な維持・普及・改良の実現に向けた仕組みの検討
- 1年目の調査フェーズでは、各課題の各メンバー当たり1～2人月程度の人件費を想定。具体的には1回/月程度の頻度でのアカデミア等との打ち合わせ及びこれに付随した作業を想定。
- 2年目以降の検証フェーズでは、打ち合わせ回数・準備作業の増加により、各課題の企業メンバー当たりの1～3人月程度の人件費を想定。
- アカデミア側の費用・その他の管理費用等は国プロ側での負担を想定。

HPCIコンソーシアム活動報告

—スーパーコンピューティングに関する調査検討 SubWG（産業利用）活動について— 【経緯】

HPCI計画は、次世代スパコン「京」を中核とし、多様なユーザーニーズに応える革新的な計算環境を実現するHPCI（革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ）を構築するとともに、この利用を推進するもので、計算科学技術関連コミュニティを結集するHPCIコンソーシアムを形成し、この主導によりHPCIを構築・運用することとされました。

平成22年4月に文部科学省中川副大臣（当時）の下にHPCI検討ワーキンググループが設置され、HPCIシステムとコンソーシアムのグランドデザインを計算科学技術コミュニティとしてとりまとめることが任務とされ、平成22年5月に検討結果を取りまとめ、「HPCIとこの構築を主導するコンソーシアムのグランドデザイン」（平成22年5月26日）として公表しました。

この報告書に基づき、平成22年7月には文部科学省の公募に応じた38機関により「準備段階HPCIコンソーシアム」が形成され、(1)コンソーシアムのあり方、(2)HPCIシステムの具体像、課題選定のありかた、(3)産業利用の促進、ユーザ支援等々にわたる検討が行われました。その結果は、最終報告書「HPCIのその構築を主導するコンソーシアムの具体化に向けて」（平成24年1月30日）として取りまとめられ、国に対する提言とされました。

一般社団法人HPCIコンソーシアムは以上の経緯を経て、平成24年4月に設立されたもので、産協協はユーザ・コミュニティ代表機関の一つとして参画している。

HPCIコンソーシアムは、国のHPCI計画に対して、計算科学技術関連コミュニティの総意のもと、主導することが定められており、文部科学省に対して、HPCIの設置、運用等について注文を出す立場である。このため、文部科学省からの受託業務を直接受けることが憚られるため、HPCIの設置、運用、課題選定等々に関する様々な検討を行う場を、京の設置・運用者である理化学研究所計算科学研究機構（AICS）に設け、その場を実質的にHPCIコンソーシアムの理事が責任を持って動かす体制を取っている。

2015年度は、課題議論の場として、AICSにスーパーコンピューティングに関する調査検討ワーキンググループ（WG）を文部科学省からの受託事業として設置し、①第二階層システムのあり方、②HPCIシステムの整備・運用体制のあり方、③産業利用の促進、④人材育成・分野振興等を議論していくことになりました。（第14回企画委員会資料から）

今後の予定

3/12 第14回実行委員会

[産協協事務局]

事務局は「虎ノ門」に設けておりますので、お問い合わせをお待ちしております。

スーパーコンピューティング技術産業応用協議会

事務局 滝口、清

電話 03-6435-5425 Email:icscp@nifty.com